

平成28年度 【 学園研究費助成金< B > 】 研究成果報告書

学部名 国際コミュニケーション学部

フリガナ トダ ユキコ
氏名 戸田 由紀子

研究期間 平成28年度

研究課題名 トニ・モリスンの『スーラ』: エピグラフから読み解くセクシュアリティの表象

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	戸田 由紀子	国際コミュニケーション学部	教授
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字~300字程度で記述)

本研究の目的は、アフリカ系アメリカ女性作家トニ・モリスンの『スーラ』のエピグラフの意味を考察することで、これまでとは異なる物語解釈を提示することにある。『スーラ』におけるセクシュアリティの表象について多数の先行研究でさまざまな解釈が提示されてきた。エピグラフはアメリカの劇作家テネシー・ウィリアムズの『バラの刺青』からの引用である。ウィリアムズの『バラの刺青』の中でセクシュアリティの象徴として用いられている「バラ」をエピグラフに配置していることは重要な意味を持つはずだが先行研究では「バラ」についてもエピグラフについてもほとんど論じられていない。そこでウィリアムズの『バラの刺青』とスーラのエピグラフの意味を切り口にスーラのセクシュアリティに関する新たな解釈を提示するのが本研究の目的である。

2. 研究の推進方策 (300字程度で記述)

- ・ モリスンの『スーラ』およびウィリアムズの『バラの刺青』の先行研究をレビュー。
- ・ 『バラの刺青』および『スーラ』において「バラ」のモチーフの役割についての比較考察。

『バラの刺青』と『スーラ』におけるセクシュアリティの表象の関連性を探り、『スーラ』のエピグラフの意味を考察し、スーラのセクシュアリティに関する新たな解釈を提示する。研究成果は共著として発表した(2017年3月金星堂より出版予定)。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

モリスンの『スーラ』における女性のセクシュアリティがどのように表象されているかに焦点を当てたところ、これまでの同性愛的作品としての位置づけでは説明できないことを指摘した。『スーラ』がどのような「多様な身体のエロスの可能性を探求」しているか、新たな読みを提示するために、これまでほとんど触れられてこなかったテネシー・ウィリアムズの『バラの刺青』から引用されている『スーラ』のエピグラフに着目し、そこで強調されているバラがどのような象徴やモチーフとして機能しているのかを『バラの刺青』と『スーラ』の比較考察を通して明らかにした。

バラは西洋において古くから愛と美の象徴である。愛には、恋愛、親子愛、慈愛などさまざまな形の愛が存在するが、『バラの刺青』におけるバラは、異性間の性愛を表す。ウィリアムズの『バラの刺青』の主人公セラフィナの「バラの刺青」は、表向きには恋愛結婚イデオロギーを賛美しつつ、実はそこにおさまきれない性的欲求、エロスの象徴として描かれている。一方、トニ・モリスンの『スーラ』にも「バラの刺青」が登場する。主人公スーラの目元にあるアザである。スーラの目の上に刻まれたアザは、棘のついたバラのように、危険な香りを放つ、セクシュアリティの象徴である。何か突飛なことをしでかすような危険。そのアザは、見る人によってその姿形を変える。そしてそれは歳とともに変化する。危険な匂いを放ち、定義を拒むバラの刺青は、それが象徴するスーラのセクシュアリティもまた捉えがたい謎めいたものであることを暗示する。

本論では、バラとセクシュアリティの関係に着目しながらテキスト分析することで、『スーラ』が、他者との関係に身を置くのではなく、他者との関係を絶ち、単独でも完全な性的存在となることで「自由」を手に入れる女性のエロスを描き出した作品であることを示した。そしてスーラの「バラ」が、「相補的な関係」から解放され、単独で完全な性的存在と成りうる女性のセクシュアリティに対する執着と謳歌が表現されていることを明らかにした。

4. キーワード (本研究のキーワードを1項目以上8項目以内で記載)

① 黒人女性文学	② トニ・モリソン	③ アメリカ文学	④
⑤	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

共著：

戸田由紀子『『スーラ』におけるバラとセクシュアリティ』 『新たなるトニ・モリソン—その小説世界を拓く』 金星堂 2017年3月出版予定